

私の故郷・北京を覗いてみる

駒澤大学経営学研究科 楊 蘭 (守屋留学生交流協会第24奨学生)

私は北京の出身で、北京育ちである。東京では“江戸っ子”というように、私は正統の“北京っ子”といえるだろう。5年前の2001年に来日してから、年1回、故郷の北京に帰っている。そのたびに新鮮な発見があり、変化の早さに驚いている。

本稿は北京の地下鉄とトイレからみえる、北京の変化を述べていきたい。そこから新しい北京を感じていただければと考えている。私自身も今回改めてHPや本で調べてみて、これからの北京をより具体的に思い描くことができたように思う。

1. 北京の概要

北京（ペキン、Běijīng / ペイチン）は、中華人民共和国の東部、河北省の中央部に位置する首都である。古くは燕京・北平・大都ともいわれた。面積1万6800km²で、人口約1300万人である。その広さは、およそ日本の四国に相当する。

行政機能が集積し政治・経済の中心であることはもちろん、紫禁城や天安門広場、庭園、古くからの街並みである胡同などがあり、世界遺産が5か所ある、海外からの観光客も多く訪れる文化・観光都市である。

2. 北京の地下鉄

私が北京にいたときは、地下鉄2本（1号線と2号線）しかなかった。運賃がバスよりずっと高いし、交通の便もよくなかったため、ほとんど乗ったことはなかった。

2003年に北京に戻ったら、地下鉄の13号線が走っていた。現在の地下鉄は北京を東西に貫く1号線（1969年完成）、東京の山手線のように北京市の中央をぐるっと回る2号線（1971年に着工、

1984年9月には環状線の北・東・西部が開通し、1987年12月に全線が開通した）、そして北の地域をつなぐ13号線である（2002年部分開通、2003年全線開通）。

さらにオリンピック・イヤー、2008年に向けて、3号線から12号線までの計画や工事がすすんでい

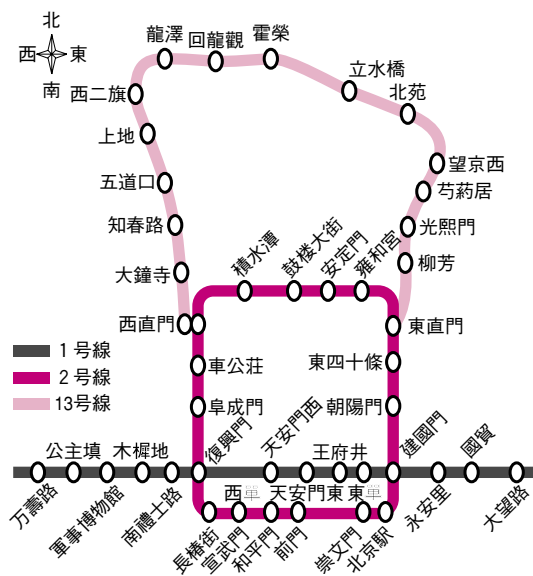


図 現在の北京地下鉄3路線

る。9号線（「北京西」駅を起点に、北に向かって地下鉄1号線の「軍事博物館」駅を経由し、「白石橋」の終点まで全長5.8km）や東直門と首都空港を結ぶ路線のほか、郊外路線を4本、現在建設中や間もなく着工する4号線（西単を南北に走る路線）、5号線（東単を南北に走る路線）、8号線（八王墳と通州土橋を結ぶ路線）、10号線（地下鉄オリンピック支線）を2008年までに完成させる。これらが完成すると、北京市内における軌道交通路線の総延長は114kmに達するという。あと3年で数路線も地下鉄ラインが増える都市は、世界にも北京市以外にないだろう。

現在の北京の地下鉄には、日本では当たり前の「自動券売機」は見られない。すべて有人の乗車券売り場である。改札も1号と2号線は乗車券の副券部分をもぎ取る形式を取っている。ただ地下鉄路線の中で13号線の改札だけは、自動改札が導入されている。

ここでは、オリンピックで予想される多くの人々をさばききれない。そこで北京市は総額43億元を投入して、1号線と2号線の改造事業を2005年下半年から開始した。そのうち6億元を投入して1号線と2号線に自動改札システムを導入し、4号線、5号線、10号線の改札システムが一本化される。また、これまで全線にわたり統一されていた運賃は改められ、乗車距離による運賃加算方式が採用される（現在は1号・2号線の乗車券の価格は全線3円で13号線との接続乗車券は2路線合わせて5元と、個別に買うより1元お得になっている）。さらに現在、1号線・2号線で運行されている従来車両は2007年までに空調付きの新型車両に交換される。

現在、中国の地下鉄は、日本の地下鉄システムには比べものにならないが、これから段々に改善されていくことは間違いのないだろう。

3. 北京のトイレ

私の小さい頃に使っていたトイレは、個室間に壁や敷居などがほとんどなく、穴が開いているだ

けでそこで用を足すようなカタチになっていた。このようなトイレは、隣で用を足す人や、トイレに新たに入ってきた人とも顔を合わせ挨拶ができってしまうことから、通称ニーハオ・トイレとよばれている。当時、中国を訪れた外国人観光客の一番苦手なものは、このニーハオ・トイレだった。

近年、トイレは北京の顔として、政府に重視され、トイレの再建、改造が多くみられている。とくにオリンピックを控えて、ニーハオ・トイレの撤去と個室トイレの整備が急ピッチですすんでいる。一方、町中のトイレ不足は深刻で、市は「徒歩で8分以内にたどりつける」ことを目標に施設充実に力を入れている。すでに市民が集まる繁華街や公園などには、絵画や生け花を飾ったり、虫の姿をかたどるなど趣向を凝らしたトイレも誕生している。

北京に帰るたびに、公園、レストラン、デパートのトイレを利用するが、前よりずっときれいになった。個室のトイレがほとんどになった。写真のような公共トイレもつぎつぎに新設されている。

今回、北京の地下鉄とトイレの事情を紹介したが、これは急速な北京の発展と進歩の一端を表しているにすぎない。北京オリンピック開催まであと2年、これから北京はもっともっと変化していくと考えられる。皆さん、機会があれば、ぜひ北京を訪れて、その変化を自分の目でごらんになってください。